

◎ 5 学 年

学級担任	機械工学科	石井 重典
	電気工学科	佐藤 眞一
	電子制御工学科	出口 幹雄
	生物応用化学科	中川 克彦
	材料工学科	松原 靖廣

○運営目標の実施状況とその成果

1. 基本方針

学生全員の卒業と卒業後の進路決定を第一とし、さらに5年間の勉学の集大成である卒業研究に対してエンジニアリングデザイン能力を培うため自主的・積極的に取り組むよう指導するとともに、下級生から尊敬を受けるに値する5年生であるように学生に自己啓発を持たせる。

2. 年間目標と実施結果

[1] 5年生全員の卒業後の進路を決定すること。

- ・担任間の相互に緊密な連絡・協力により全ての学科において、5年生全員の卒業後の進路を決定することができた。

[2] 5年生全員が卒業を果たすこと。

- ・欠課の多い学生、受講態度の良くない学生や成績不振者への指導は、学級担任と卒業研究担当者との緊密な連携をとると共に、保護者への連絡、面談などを実施したが、2学科3名が卒業することが出来なかった。

[3] 卒業研究に精力的に取り組み十分な成果を上げること。

- ・日常の卒業研究成果と学生自身が培ったエンジニアリングデザイン能力を評価するため、前期および後期に卒業研究成果の発表を行い、各教員による総合評価を実施し、2名の学生を除き、5学科学生全員が卒業研究を修得した。

[4] 高専の最終学年生として相応しい生活態度と言動を心がけ、後輩の模範となることができること。

- ・教室の環境美化に取り組むとともに、学校全体の環境美化活動にもクラスが一丸となり清掃活動に率先して取り組む。さらに、ティーチングアシスタントや夏季体験学習等の、後輩の指導や年少者対象の外部向け活動にも積極的に協力するなど、後輩の模範となることができた。

○総合的な評価と課題

結果的に5年生全員の卒業という目標の達成は叶わなかったが、進路指導・学生生活指導については概ね適切な指導ができたものとする。100%の卒業を果たすことは5年生の普遍的課題である。また、5年生には、特に後期に入ると「卒業できればそれでいい」というムードが生まれ、緊張感が緩む傾向が見られることが多い。これをなんとかして最高学年生としての自覚と緊張感を維持したまま卒業を迎えることができるようにし向けるための工夫をすることが今後の重要な課題であろう。